

平成 27 年第 3 回定例会 産業労働常任委員会

平成 27 年 10 月 9 日

鈴木委員

私は、最後に、観光だけ数点聞いておきたいと思います。

一つは、私はずっとお聞きしていて、インバウンド、また各論のお話がいろいろあったのだけれども、この観光振興計画というのを読んでいたら、相対的に箱根をひっくるめて日帰り客が大変に観光として多い県なのだというようなことが、やはり書かれていた。たしか 6 割か 7 割ぐらいだよな。私は、その中で観光、観光と言っているけれども、果たして何をターゲットにしてやるべきなのかということ、やはりしっかりと論議しておかなければいけないのではないかと。

まず、私がお聞きしたかったのは、先ほどから課長の答弁を聞いていて一つ疑問があるのは、観光というのは、そもそもが神奈川県に来たいというようにならないといけないと私は思う。神奈川県に来たいと。どこどこに行きたいというのは、それはもう確かにスポットしてある。だけれども、実は、私が質問をさせていただきたいのは、外国のお客様が政府、議長を表敬していただいた。その中で一つは、京畿道の方と、あとベトナムの方々と、懇談の機会を得ました。

当然、ベトナムの方は、来ているのは国から神奈川県に来ているから。それで京畿道の方は、最初から神奈川県に来ている。

そうすると、神奈川県に来ている人は、箱根ってすぐ言うんですよ。ところが、国として来ている人は、神奈川県は箱根って言っても分からない。それはベトナムと、ある意味で韓国の差なのかもしれない。

私があるとき思ったのは、神奈川県として要するに窓口としてあるのは、横浜港だよな。空だったら羽田だよな。そうなってくると、横浜港対策というのは、実質的にどこにあるのかなというのが一つ。

もう一つは、神奈川県として人を呼ぶという施策というのは、どう見ても見えない。だから、もう、すごくきれいに、例えばリピーターを増やそうみたいにいっぱい書いてあるけれども、神奈川県は魅力って何だろうというところには、やれ鎌倉だ、いろんなどが書いてあるけれども、神奈川県として呼ぶ観光としての施策がなければならぬと私は思ったわけ。要は、神奈川県に来なければ箱根に行かないと、私は断定してはいけないのだけれども、そういうルートのこと。

要するに、箱根にじかに来るとか、そういうものではなくて、やはり窓口のところに来て神奈川県に来ていただく人が基本的に箱根に行くのではないかと、私は持論だったわけです。この 1 箇月間の間、お客様を迎えてね。これについて課長はどう思いますか。

観光資源担当課長

私から説明させていただきますと、まず、整理をさせていただきますと、神奈川県内にいろいろな観光資源というかコンテンツがありますが、その中でも、例えばインバウンドということは、多分、観光をやっている我々からも同じ認

識だと思えるのですけれども、実は、神奈川県という名前自体、余りよく御存じなくて、そういう世界観光機構というところが調査をした資料がありましたが、日本の中で知っている観光地、それから行ってみたい観光地というのは、1番は富士山ですね。それから2番目が東京です。

神奈川という切り口はなくて、箱根というのは、国によってまた今度は違うのですけれども、たしか欧米の方は箱根というのはよく知っている。箱根に行きたい。しかし箱根がどこにあるかよく分からないということです。

したがって、一つは、国際課長が答弁していますけれども、国別にターゲットを絞って、それから、コンテンツをある程度マッチングをさせていくということになるのですけれども、観光振興計画というのは大方針が書いてあるので、細かい戦術論みたいなところは、多分落とし込めていなかったのだと思います。

それが、この3年前の観光振興計画を立てた段階から、今度は大きく変わったのは、一つはオリンピックが決まった。それから、外国人がたくさん来ているという状況がありますので、その中でかなり細かく、今までの振興計画をもっと具体論に落とし込んでやっていきたいというのが、今の現状だと思います。

鈴木委員

答えになっていない。

私は、何で分かってないと言ったら、あなたは今、箱根とおっしゃったけれども、箱根が外国に対しては、私はそんなにメジャーだと思わないよ。

だから、私が言っているのは、横浜港なら横浜港に向けての戦略などが、失礼ですけれども、どこを見ても基本的に書いていなかった。でもやはり、入り口としては、例えば羽田から、要するに当然、今回出てきている橋の問題とかというのは私も分かるのだけれども、やはり神奈川県に来させなければいけないのではないか。それだったら、横浜なら横浜に来させるという戦略というのを一つ持ってもらいたいという思いがして、まずはイントロとしてお話をさせていただいた次第でございます。

多くのお客様に来ていただきながら、国として来た場合には、やはり神奈川県はスルーする、大概の方は京都に行かれてしまう。一方で、神奈川県にいらした方は箱根に見えるという思いがしましたので、一つそのような、御要望としてお願いをしたい。

その中で今日は二つだけ具体的な提案についての回答を求めたいと思います。

一つは、具体的に代表質問等でも、他の会派の方もおっしゃっていたけれども、一つにはやはり、外国人の方、インバウンドの方々が、日本の中の、特に箱根だ、また、神奈川県の中のこういうところが良いのだという、またディスカッションしたり、また、そういう場所を選定していただく場所というのは提供して、神奈川県として取材というか、情報を仕入れることは大事だなと私は思いました。これについてどう思うのかと一つ。

もう一つは、やはり今のなるべくお金をかけないシステムをいろいろ見ていると、やはりフェイスブックというのはあるだろう。フェイスブックでどれだけいいねというものが出たときというのは、これは結構広がりがあるというのが、どうも報道番組等見ていながら私は思いました。でき得れば、このフェイスブックを使った形での神奈川県としての、そんなにすごくお金がかかると私

は思わないので、なるべくそういうような形で、フェイスブックのいいねを活用して神奈川県をアピールする。

以上、二つについてどのように思われるか、御回答いただきたい。

国際観光課長

今、委員がおっしゃったような外国人の視点で物事を見ていくというのは、非常に大切なことをございまして、我々からすると大したことがないものでも、外国の方から見ると非常に価値のあるものというのは、非常に多くあると思います。

そこで、県で今後、外国人の方ですとか、外国人のニーズに精通した方々を、例えばですけれども、神奈川の国際観光アドバイザーとか、そういった形で御意見番として任命するなどのそういった仕組みを検討してまいりたいと思っております。

あともう一点おっしゃられていたSNS、特にフェイスブックを使っての活用というのは、いいねを押すと、どんどんその友達につながっていくという拡散力が非常に高く、工夫次第では、大きなプロモーション効果につながると思っております。

ただ、各国で、フェイスブックがはやっているところもあれば、違ったものもございますので、SNSの種類ですとか特徴等を見極めながら、そのSNSを使ったPRに力を入れていきたいと考えております。

鈴木委員

まず私は、インバウンドについてはそういうような思いがありますが、今日ちょっと、これから手短かに箱根についてお聞きしたいのですが、箱根と言っても、私は陥りやすいところに、箱根山ということで風評被害をかなり頂いた。今回、箱根と言っても、私も高橋委員がいらっしゃるから、余り箱根のことで生意気なことを言えないのだけれども、交通路というのは全然違うと思うのですね。

例えば、湯本の方から来たときには、これは当然、ロマンスカー等があり、あなたがこの前おっしゃっていたいろいろなコマーシャルをやられたという、小田急がやたらロマンスカーをやっている、そういうようなところがある。

私が一番心配したのは、御殿場口の方からなんですよ。

御殿場口というのは、基本的には車以外の、これは当然、バスは来ているけれども、御殿場口の方からもすすき野エリア、早い話が仙石原周辺というのかな。あそこが要は、一番私は今、被害を被って、私もお邪魔したのだけれども、大分閑散としている状況だと。

だから、一見マスコミなどが報じている、だんだん人が戻ってきたとおっしゃっているのは、多分、湯本からずっと、早い話が強羅にかけてのところであって、本当に仙石原の方は、私もちょっと一、二の旅館等かけさせていただきましたけれども、そんなに客は戻っていないと感じました。

そうすると、同じ箱根でも、戦略的に御殿場口と湯本口というのは、やはり違うだろうと。何かデータはありますか。そういう入り口データみたいなもの。

観光企画課長

箱根は幾つか入り口があって、それぞれどういった数値があるのかということで、参考で申し上げますと、先日公表させていただきましたけれども、入込観光客調査を実施しております。この中で、各地点ごとでの観光地の入り口の数数を数える調査がございます。標準日実数調査と言って、箱根では5地点でっております。

まず、箱根湯本側から入ってくる、山崎という地点が、平成26年の人数で申し上げますと、約710万人でした。年間でそちらの口から入ってきているということがございます。

一方、今、お話がありました御殿場方面から入ってくる地点としましては、乙女峠がございまして、ここで調査した数値で申し上げますと、年間的人数が約447万人ということで、比率で申し上げますと、全体の箱根に訪れる観光客の44%が箱根湯本からの観光客です。一方、御殿場口からの方が28%、こういった数値となっております。

鈴木委員

数値は余り聞く気はないのだけれども、私はちょっと不意に思ったのは、お邪魔をさせていただいて、本当にもう、芦ノ湖周辺というのは閑古鳥が鳴いているぐらい本当に厳しい状況だと。まして、あのような形で大涌谷の状況があって、対策というのは、私は御殿場口をどのような形にしていくのかという戦略というのは、とっても大事なのではないかなと私は思ったわけです。箱根対策というのもそうだけれども、この前高橋委員がまた、湯河原や真鶴のお話もされましたけれども、箱根、箱根という中で、きちっとした視点を決めた形での観光戦略というのが、私はすごく大事だろうと思ったのです。

その中で、2点だけ。御要望して終わりにします。

一つは、やはり仙石原というところのすすき野畑、これからすすき野が一面になっていって、多くの方が一度、私は少なくとも外国人の会った方とお話したときには、やはり見てみたいという御感想が結構ありました。仙石原のすすき野ですけれども、これも一つの戦略を何か考えていただくとありがたいと。偶然にも先日、箱根町の議長とお話をしたら、あそこがエヴァンゲリオンの聖地なのだそうですね。エヴァンゲリオンなんて言われても、私全然知らなくて、見ているわけではないもので、知ったかぶりできないのだけれども。ただ、国のポスター等でもありましたけれども、何か仙石原、そしてまた、先般来私もお願いしておりますドローン等ともひっくるめた形での仙石原対策をして差し上げたらいかかかなというようなことが一つです。

もう一つは、私もお邪魔させていただいた関所跡なのですが、やはり何人かの方から、あそこに関所があったというものの、関所の意味が、外国人の方は分からないようです。やはり、私、思ったのは、関所跡というものについても、日本人のイメージとはまた外国の方々からすると違うのではないかというような思いから、何だかんだの形でやはり私は、仙石原からああいいう芦ノ湖もひっくるめた形での、あのエリアの方に対する戦略を是非ともちょっと立てていただければと要望をさせていただきたいと思います。

最後に、私は申し訳ないですけれども、いろいろな質疑がありましたけれど

も、先ほど私は何で一番最初に日帰りの方のお話をさせていただいたのかというと、本当にインバウンドだけでいいのかと私は思っているわけ。

私が泊まったところは、実は外国人の方がいっぱい泊まっていた。わざとそここのところに泊まらせていただきました。真夏の8月に晩御飯に何が出たと思いますか。実は鍋だったんですよ、鍋。鍋が出ているわけ。イノシシ鍋というものですよ。

私たちは、暑い、クーラーががんがん効かせてよと言っている中で鍋が出ているのだけれども、日本人からしたら勘弁してよと思いますよね。もっと冷たいものが食べたいと思うのだけれども、外国の方はもう喜んで、iPhoneなり何なりでばちばち撮っているという姿を見ました。

私は本当にインバウンドという中で、日帰り客の方々を入れる旅館や、またそういう方々と外国の方と一緒にして、やれ誘致しろだの何とかということによって本当に言っているのかと。私は申し訳ないですけども、日本人の感性と外国の方々がいらしたその感性というのは、私は違うと思いますよ。それを一緒にして、おもてなしだ、みたいな形にするという戦略は、私はいかんかなというふうに、実は1泊させていただいて思いました。翌日も、きれいなこんな花かごの中に6種類こうやって入れて、どさんと置かれました。どさんとは言い方いけないよね。普通だったら、私だったら、朝だったらやはり1品ずつ出していただくありがたいけれども、その花かごを見て皆さんはばちばち撮っていた。やっぱり全然感性が違うのだなと。

果たして、このインバウンドと言われる問題と、国内旅行、そして箱根なら近隣の、例えば東京とか神奈川と、そして埼玉から来る方々のこの旅行客に対してどちらをとるのだという選択は、戦略的にきちっとしなければいけないのではないかというように思いましたので、そのことだけお話しさせていただいて、質問を終わらせていただきます。

意見発表

鈴木委員

私からは数点お願いします。

一つはZEHについてお話をさせていただきました。もう少し県民に身近に感じられるモデルケースというようなものを、今後しっかりと考えて進めていくべきであろうということをお伝えしたいと思います。

二つ目は、ロボットにつきましては、実証実験等いっぱい書いてありますが、しっかりとアウトカムを出していただかなければいけない。

今日も朝見たら、おもちゃ博か何かでいよいよ衣類をたたむロボットまで出てきたみたいで、もう本当にどうなのかなというような思いをして見ておりました。どうぞアウトカムをしっかりとつかんでいただきたいと。

もう一つは、御指摘しましたように、AIなのかロボットなのかという境がだんだん無くなってきた中で、どのような形で事業展開を今後していくのかというのがとても大事な観点ではないかと思しますので、その点もよろしく願いを申し上げたいと思います。

中小企業活性化推進計画については、なかなか大中小の柱というのは分かりづらい。しっかりこれは分かるような形にしていきたい。その中で特に、中小企業2万社を訪問するとは書いてあるけれども、何をどのような形で何を基準にというようなものがなかなか見えない中で、しっかりとした計画をつくるのはいいのだけれども、やはり本当に入り口と出口について、例えば私が提案させていただいた、基本的にはもう、入り口ではいろいろな融資だ、そして先ほどもお話がありましたけれども、弁済等といろいろあるけれども、出口としての、例えば何期、例えば万が一法人税等赤字というような、こういう入り口と出口というのはなかなかマッチしないでもしやっていたとしたら、これは大変に愚かなことではないかと私は思いますので、その点も見ながらお願いをしたいと思います。

障害者雇用につきましては、お話しさせていただきましたとおり、職種としてしっかり、また一つ一つの職種を見ていただかなければ、ただ単に雇用率を上げようと言っている、なかなかそれは難しいものがある。一つでも問題をクリアにして、どういうところに問題があって、このようにしますというような指針をなるべく早く出していただきたいと思います。

もう一つは、かながわくらし・しごとセンター、これにつきましてはお話しさせていただきましたように、移住とかという言葉は果たしてふさわしいのかどうか。もう少し気楽に、気楽にという言い方はいけないのかもしれませんが、試してみたいなという中でお話しさせていただきました。例えば週末だとか、例えば年に何箇所とかというような形のものがイメージできるもの、これをしっかりまたアピールしていただければ幸いかと思います。

最後に観光です。

今、お話しさせていただきましたとおり、まずは神奈川に連れてくるという戦略をしっかり立てていただけませんかと。確かに神奈川にはこういうこと、これがあると言うけれども、神奈川県をどのようにアピールするのかという戦略というのはなければいけない。その中でも特に、横浜港というのはあってもしかるべきだと。どのような形で連れてくるのかということも一つ大事で、横浜からの入り口から、そして箱根等という、また真鶴等という言い方もありますので、その戦略を一つ立てていただければと。併せて先ほどもお話しさせていただきました、SNSを使つての発信、そしてなおかつ、外国人の方々の御意見を聞くような場所を早急につくっていただければ幸いかと思います。

併せて、私がお話しさせていただきましたとおり、箱根問題につきましても、御殿場口というものについての一つの戦略があってもしかるべきではないかと。箱根というようなくりの中からどのような形で人を集めるかというのは、やはり戦略問題ですから、これをしっかりお願いをしたいというのと、最後にやっぱりインバウンドとは言っている、実際に国内客とそのインバウンドの方々との兼ね合いというのはとても難しいと私は思いますので、それをしっかり見極めながら施策を推進されるようお願い申し上げまして、諸議案に賛成させていただきます。